

長岡がもっと好きになる! 若者がつくる、若者のためのイマドキ長岡本。

# YOUTH NAGAZINE

Zine for The Youth in Nagaoka, Niigata

**VOL.1**  
TAKE FREE

働く、暮らす、楽しむ  
長岡っておもしろい



## YOUTH NAGAZINE

YOUTH NAGAZINE 2017年3月発行

【発行】ながおか・若者・しごと機構

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2-4-4

Tel. 0258-86-6008 <http://wakamonokikou.net>

ながおか・若者・しごと機構は

長岡市内の産、学、官、金の29機関が参画し、

オール長岡で地方創生に向けて

若者のアイデア実現、若者同士の交流創出、

若者がいきいきと働く場づくりを応援しています。

©ながおか・若者・しごと機構 無断複製・転載を禁じます。

01 Message

02 建築士の資格を取って、結婚も  
この街で働き、ずっと暮らしたい  
**Chiaki Nishiyama**

06 チームワークでこだわりのバーバーを開店  
長岡の男たちをもっとスタイリッシュに  
**Takashi Okubo**

12 若い世代へ、農業をもっと身近に  
仲間と手を取り、ゆっくり、じっくり  
**Yutaka Maruyama**

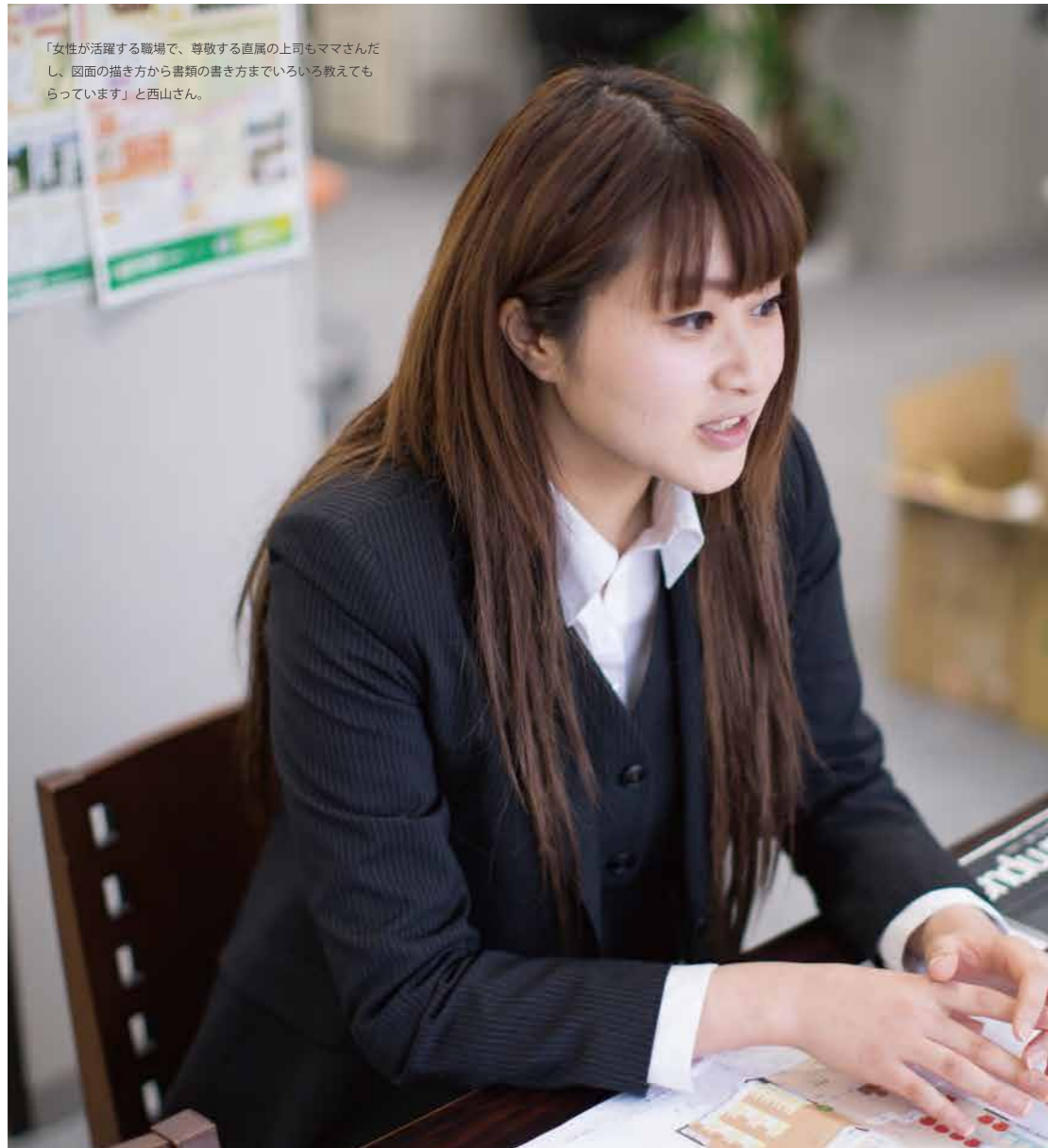
16 「ここからでしか見えない景色があるから」  
応援してくれる人がいる、このホームタウンで  
**MIYUKI**

20 Locations

# YOUTH NAGAZINE

Zine for The Youth in Nagaoka, Niigata

信濃川が悠々と流れ、日本海と山々を臨む、  
私たちが暮らす街・長岡。  
大自然に囲まれ、季節を肌で感じる  
シンプルであたたかい日々の暮らしがあります。  
長岡で働く、長岡で暮らす、  
長岡人の「だから長岡」を伝えたい。  
そんな思いを込めて、この ZINE を作りました。



「女性が活躍する職場で、尊敬する直属の上司もママさんだし、図面の描き方から書類の書き方までいろいろ教えてもらっています」と西山さん。

## CHIAKI NISHIYAMA

西山千晶さん / 25歳 (会社員)

上越市生まれ、長岡造形大学建築デザイン学科卒。  
(株) プラスパー・トム建築部設計監理課勤務。  
2級建築士の資格取得を目指す未来の建築士。

### 建築士の資格を取って、結婚も この街で働き、ずっと暮らし続けたい

上越市で生まれ育ち、20歳で長岡にやって来た西山千晶さん。管理栄養の大学に入学した後、長岡造形大学に編入して建築とインテリアデザインを学び、長岡市柏町



にある店舗と住宅の設計・施工会社に新卒で入社した。「2年目ですが、デスクワークと現場と、たくさんの仕事を任せてもらっているんですよ」。MacintoshとWindowsを使いこなして図面を描き、カタログを見ながらクライアントと打ち合わせをする日々。

「おじいちゃんが大工で、その姿がなんとなく目に入っ

ていたのでしょう。建築ってカッコいいなと思って。大学では設計演習のランキングが毎回発表されて大変でしたが、悔しさや辛さをバネに乗り越えました。長岡の自然環境にも鍛えられたし、大学時代に我慢強さが養われて、今のがんばりにつながっていると思います」。

進学や就職で上京しようという気持ちがなかったわけ



ではないが、東京まで 2 時間弱なら行きたいときに行けるのだからと考えた。「遊ぶ場所がないと言う人もいるけど工夫次第。大学時代は往復 1800 円くらいのバスツアーを週末によく利用して。建物を見るのが好きで、東京はもちろん、あちこち見学に行きました」。

就職活動は簡単ではなかったが、何社かの中からここ

だという決め手になったのは、面接で出会った人たちの魅力が大きかったという。就職 1 年目から数々のプロジェクトに関わり、常に 3、4 件が同時進行という怒涛のような毎日が駆け抜けていった。「申請や審査は面倒ですが、お客さんが望んだものがカタチになった！そう実感した瞬間はテンションが上がります」。クライアントに叱られ



今日の服は、大学時代にアルバイトしていたリバーサード千秋の marmelade でコーディネート。知る人ぞ知る長岡のアート拠点、呉服町にあるギャラリー mu-an では、ユニークな美術・工芸作品がぐんと身近に。



休日は美術館、ギャラリー、古着屋巡り、ときには友人たちと“宅飲み”。天気の良い日は、国営越後丘陵公園で花を見ることも。東京への好アクセスを活かし、旅行にもよく出かける。

て涙することもあるが、ここで働き続けたいと語る。「いずれ私も 2 級建築士の資格を取りたいし、2020 年までに結婚もしたいんです。キリがいいので (笑)」。

西山さんは映画好きで、友人と観ることもあれば、ひとりで観ることもあるという。「余韻に浸ってるのに、イマイチだったよね、なんて言われたくないですから。本

当に観たいものはひとりがいいんです」。

仕事もプライベートも具体的なイメージを思い描き、自分のペースで一歩一歩進んでいく彼女は、きっと着実に夢を叶えていくのだろう。

Feature\_ **CHIAKI NISHIYAMA**



「父は技術が高く、店がいつも賑わっていたから、自分も床屋にと思ったのですね」と大久保さん。

## TAKASHI OKUBO

大久保貴史さん / 30歳 (理容師)

長岡市小国町生まれ、新潟理容美容専門学校卒。柏崎と新潟で修業後、長岡駅近くにアメリカン・バーバーをオープン。Barber&Shop NOBLE オーナー。

### チームワークでこだわりのバーバーを開店 長岡の男たちをもっとスタイリッシュに

長岡駅から南へ歩いて5分、駅のにぎわいが続く旭町交差点。クールなタイポグラフィのサインが目にとまり、木の扉を開けると、しっとりしたR&Bが聴こえる。ストー



シャッターの絵や店のロゴなどのデザインワークは、長岡在住のアーティストで高校の先輩でもあるKRAKの作品。「アメリカのストリート感を知ってる人なので、テイストを共有できるんです」



ハサミ、カミソリ、バリカン、ケープやエプロンなど、すべての道具にこだわり抜き、気に入ったものを厳選。理想を追求するため各地に赴く。「長岡は首都圏へのアクセスがいいから助かります」

ブには赤々と火が燃え、壁にはモノクロームの写真がたくさん。まるで60年代のアメリカ映画の中に迷い込んだかのような、クラシカルな雰囲気のリバーズ店がそこにあった。

長岡商業高校から新潟の専門学校に進み、2つの店の修業を経て、2012年10月にBarber & Shop NOBLE

をオープンした大久保貴史さん。小国にある実家も理髪店で、両親と兄弟夫婦が切り盛りしている。「幼いころから活気のある床屋で働く父を見ていたので、自分もきっと理髪師になるだろうと思っていました」。

“男性の社交場としての床屋をオリジナルのスタイルで”——そんな夢を20代半ばで叶えられたのは、ここ長



オフは家族一緒に。妻子の笑顔が疲れを癒してくれる。「季節ごとの楽しみがあり、無料で使える施設もある。長岡は子育てしやすい街ですね」

岡での物件との出会いと、店舗の内装施工やデザインワークなどをサポートしてくれる友人や先輩に恵まれたことが大きいと語る。スケートボードや音楽を通じてアメリカの文化に惹かれた彼は、アメリカン・バーバーに憧れ、雑誌やインターネットでリサーチしては全国各地の個性的な店に足を運んだ。それは店主のテイストが色濃く反

映された理髪店ばかりで、こだわりの強さも魅力となって街いちばんのオシャレな男たちが集っていた。そんなバーバーを実現したのは長岡ではここだけ、新潟県内にも数えるほどしかないという。

「最近美容室が主流で、同級生の多くは美容師になっています。だからこそバーバーのカルチャーを伝えてい



子連れにもやさしい SUNNY FRIENDS CAFE は、バリスタが淹れるコーヒー、ハンバーガーやスイーツに定評あり。ラテアートのワークショップなども開かれている。

きたい。ただ髪を切り、髭を剃るだけでなく、コーヒーを飲みながら談笑したり、情報交換したり、男性がゆったりした時間を過ごせる場所にしたいんです」。店名の「NOBLE」は「高貴な、気品や威厳のある」といった意味で、名前の「貴」に由来。「そんな店にしたいという気持ちもあって」と笑う。

探究心と向上心に動かされ、理想を求め続ける彼の店は、クールな男たちが集う居心地のいい場所へと、さらに進化していくに違いない。

Feature\_ **TAKASHI OKUBO**



長岡のランドマーク、長生橋。過去に2回架け替えられ、  
3代目のこの橋は1937年竣工、今年80歳を迎える。



## YUTAKA MARUYAMA

丸山豊さん / 38歳 (農業)  
 長岡市岩野(越路)生まれ、(有)グリーンフィールド岩野。  
 新潟県青年農業士会長岡ブロック会長。  
 ながおか農 challe プロジェクト実行委員長。

### 若い世代へ、農業をもっと身近に 仲間と手を取り、ゆっくり、じっくり

市街地から車で15分も走ると田園地帯が広がり、のどかな風景が目と心を癒してくれる。丸山豊さんが生まれ育ち、農業に取り組む、越路地域はそんな場所だ。「子供



のころから絵や工作が好きでした。だけど、絵でも球技でもローラースケートでも、なんでも上達はゆっくり。みんなが飽きたところに一番うまくなる(笑)。

小千谷市の高校に進み、長岡造形大学で建築を学んだ。卒業後は新潟市内の内装施工管理会社に就職したが、結婚を機に長岡に戻って造園業に転職し、資格も取得。

2001年の春に父が仲間と共に始めた農場「グリーンフィールド岩野」で人手が必要になったため、2年後に加わった。

「お米をメインに、冬はビニールハウスで小松菜、ブロッコリー、カリフラワー、白雪こかぶ、オータムポエムなど様々な野菜を栽培して直売。採れたてを提供できるの





長岡の農と食を盛り上げる仲間と、とことん語り合いたいときは「越後の台所すずきち」へ、「越路にんにく」が使用されたテイクアウト用「バーニャカウダソース」もここで手に入る。「長岡は真実種交流が盛んで、お互いに認めて応援する土壌もあり、夢が実現しやすい街です」

で、市外からもお客さんがたくさん来てくれるんです。農業者ですが接客業もやりますよ」。夏は枝豆とトウモロコシ、秋はさつま芋も、里いも。酒粕を土作りに活かし独自栽培した「酒かす越路にんにく」も人気がある。

絵やデザインの能力を活かして広報ツールを制作し、イベントの企画・運営も行う。2016年8月、長岡農産物

のPRと消費拡大を目指して開催された「世界えだまめ早食い選手権」では実行委員長を務め、チラシのデザインも手がけた。80人の出場者募集に県内外から735人のエントリーがあり、約3500人が来場。メディアも駆けつけ全国放送でも取り上げられた。「枝豆ファンがこんなにたくさんいるとは！ザルに山盛りで食べる「長岡スタ



NPOや委員会のリーダーとして大忙しだが、息子たちとのふれ合いも欠かせない。オフの日はキャッチボールをすることも。「山と海が近い長岡は、のびのびと育児を楽しむには最高の環境。夏はクワガタやカブトムシを捕り、キャンプや釣り、冬はスキーとスノボ。昔はよくバイクでツーリングにも出かけていました」

イル”を知ってほしいです」。

イベントは苦労も多いが反響も大きい。若い世代に農業を身近に感じてほしいから、すぐに効果が見えなくても、じっくり続けていきたいと語る。

穏やかな語り口だが、農と食への想いはひたすら熱い。「必要とされる場所で働き、楽しさとやりがいを感じてき

ました。世の中やってみないとわからないことだらけ。見返り優先ではなく、おもしろそうで、意義がありそうなことはとにかくやってみる。まず始めてみないと楽しいことは生まれなし、継続も大事です。心身ともにタフでいたいですね。」

Feature\_YUTAKA MARUYAMA



## MIYUKI

MIYUKI / 29 歳 (シンガーソングライター)

長岡市生まれ、長岡市育ち。東京でゴスペルを学ぶ。クラブ REGNO2 を拠点に活動する R&B シンガーで、アパレルショップにも勤務。2016 年に結婚。

「ここからでしか見えない景色があるから」  
応援してくれる人がいる、このホームタウンで

「たった一度くらい 本気になってみればいい  
No more cry どんなだって 私が私である為に」  
——MIYUKI が作詞作曲を手がけた『Be myself』。澄み切っ



MIYUKI の PV は YouTube で見ることができる。  
「MIYUKI Be myself」で検索を。



た伸びやかな歌声のリフレインが、私たちの背中をそっと押してくれる。自分らしくあれと。

「幼稚園から中学までピアノを習って、高校の鑑賞会で聴いた、リリックホールでのゴスペルコンサートに胸を打たれました。『天使にラブ・ソングを』が好きだったので、すごく興味が湧いて。これだ！と思ってゴスペルを学び

に東京のスクールに通ったことも。近場でも学べたけれど、どうしてもそこが良かったんです。

坂之上町のクラブ REGNO2 が MIYUKI のホーム。ステージでスポットライトを浴び、歌で聴衆を魅了する彼女は、CoCoLo 長岡のアパレルショップで販売の仕事もこなす。「カジュアルな服もあればエレガントな服もあって、高校

観光客と地元の人々がいつも賑わう寺泊、通称「魚のアメ横」の浜焼きで一杯。「おしゃれな店より、居酒屋や焼き鳥屋で飲むのが好き。お酒はビールやウーロンハイですね」。



時代の憧れの店なんです」。働き始めて 10 年ほど。ライブには店の仲間たちが足を運び、音楽活動との両立を応援してくれているという。

「CoCoLo になる前のセゾン・ド・ナガオカにレコードショップがあって、プレイヤーもないのにレコードをあさってる自分に酔ってみたい (笑)」。洋服を売りながら

詩やメロディーがふと浮かぶが、後でどうしても思い出せないこともある。「忘れてしまったらその程度ってこと。覚えているものだけが残ればいいかな」。

2016 年 6 月に結婚。夫はラッパーで、彼も別の仕事を持っている。「生活のための仕事も楽しんで、稼いだお金で好きなことをやる。それがいいんです」。近いうちに自



REGNO2 で MIYUKI が開催するイベントには、東京からのゲストも訪れる。寺泊を案内し、雄大な風景と山海の美味に感動した彼らの「こんな場所に住みたい」「また来たい」という声に、「音楽活動を通じて長岡の魅力を伝えることができたらいい」と彼女は微笑む。

宅の中にレコーディングブースを設けようと語り合うふたり。

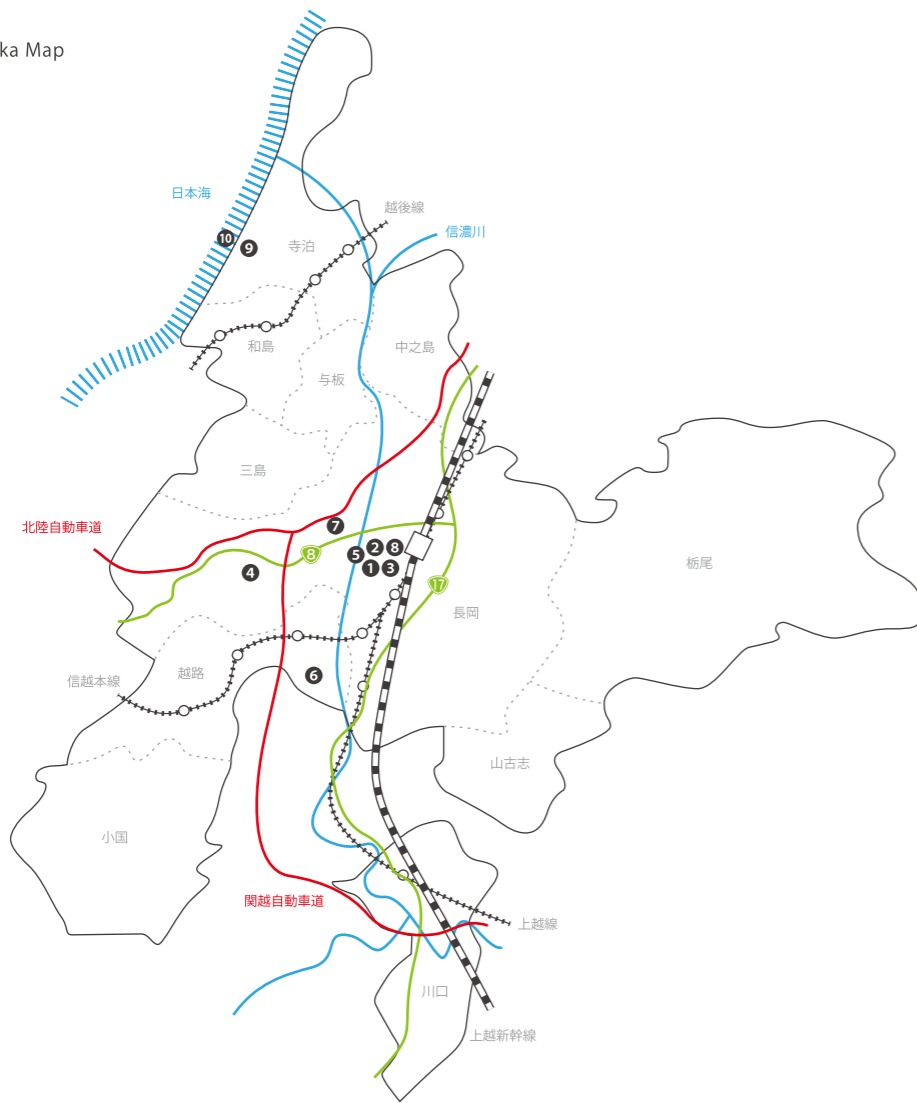
いつか母親になって、アパレルの仕事もしながら歌い続けたいと語る彼女は、R&B の歌姫アリシア・キーズに惚れ込む。世界中の、とりわけ同性が憧れるアリシアのように、MIYUKI もまた自分らしさを貫くカッコいい女性。



『Be myself』にこんなフレーズもある。「今がどんな場所だとしても たとえ遠回りだとしても ここからしか見えない景色があるから」。その目は真っ直ぐに未来を見つめている。

Feature\_ MIYUKI

Nagaoka Map



Locations

- p.2 ①(株)プラスパー・トム 長岡市柏町 1-5-16 tel.0258-31-7106
- p.4 ②ギャラリー mu-an 長岡市呉服町 2-1-5 tel.0258-33-1900
- p.6 ③Barber & Shop NOBLE 長岡市旭町 2-2-10 tel.0258-94-4613
- p.8 ④SUNNY FRIENDS CAFE 長岡市青葉台 5-22-2 tel.0258-46-0037
- p.10 ⑤長生橋 長岡市左近町・岡村町・大島町
- p.12 ⑥グリーンフィールド岩野 長岡市岩野 1728 tel.0258-92-6126
- p.14 ⑦越後の台所 すぎち 長岡市古正寺 2-78 tel.0258-28-8410
- p.16 ⑧REGNO2 長岡市坂之上町 1-3-5 tel.0258-37-5283
- p.18 ⑨魚の市場通り 長岡市寺泊下荒町・寺泊荒町
- p.19 ⑩寺泊中央海水浴場 長岡市寺泊上田町ほか



あとがき

未来の長岡を担う若者たちに、長岡の魅力や長岡で暮らす楽しさを知ってほしい。若者パワー全開で、夢の実現に向けて動き出してほしい。そんな思いを伝える情報誌の制作に取り組んできました。長岡には、ここで夢を実現し、毎日をエンジョイしている若者が大勢います。その楽しみ方は、実に多彩。いろいろな人との出会いが、学びや暮らしを通じた様々な経験が、そして、生まれ育った環境や長岡の風土が、それぞれの夢や暮らしを支えています。今回、そんな若者たちの中から4名取材しました。長岡で、夢に向かって挑戦を続ける彼らの姿が、若い皆さんの進学や就職、転職、Uターン、結婚、子育てなど様々なシーンで、参考になったらと願っています。この情報誌が、若い皆さんの背中をポンッと押す、そんな冊子となりますように。ぜひ、長岡に興味のある多くの方からお読みいただきたいと思っています。誌面を通して、あなたなりの長岡の魅力を再発見してください。



「YOUTH NAGAZINE」へのご意見、ご感想、そのほか、あなたの体験、長岡暮らしの魅力など、ぜひ、お寄せください。専用フォームにアクセスします。

長岡の耳より情報はこちらから

■ながおか・若者・しごと機構  
若者のアイデア実現を応援。

ながおか 若者



facebookも  
フォローを！

■な！ナガオカ  
長岡の魅力を市内外へ  
発信するwebメディア



■LINE@  
長岡市公式アカウント  
友だち追加用QRコード

